平成26年度　英語力調査結果（高校3年生）の概要（詳細版）

1　調査の目的

○　高校3年生を対象に、英語の４技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）がバランスよく育成されているかという観点から、生徒の英語力を測定し、調査結果を学校での指導や生徒の学習状況の改善・充実に活用。

〈参考〉
第２期教育振興基本計画（平成25～29年度）に、グローバル人材の育成に向けた取組として、民間の資格・検定試験団体と連携した生徒の英語力の把握・検証による戦略的な英語教育改善の取組支援を提言。また、成果指標として、高校３年生の英語力の目標を設定。

＊第２期教育振興基本計画（平成25年～29年度）における成果指標
①国際共通語としての英語力の向上
・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%

2　調査の内容・対象

○　全国の高校3年生約7万人（国公立約480校）の英語力を調査
・学習指導要領に基づき、３技能を対象とした試験を実施。
・「話すこと」は約１．７万人を対象（１校あたり１クラスを対象）

○　英語の学習状況を把握・分析(質問紙調査)
・受験した生徒に対し、英語学習に関する関心・意欲や学習状況
・調査実施校の英語担当教員に対し、指導や研修の参加状況
・調査実施校に対し、指導計画の作成や研修の実施状況
などについて質問紙調査を実施
※筆記テストの試験監督及びスピーキングテストの試験官は、調査対象校の英語担当教員などが研修（送付された研修資材を使った事前研修）を経て担当

○　学校の取組事例
・調査実施校のうち、調査結果において特徴があった学校の取組について調査

○　試験実施時期：平成26年７月～９月）

3　調査の特徴

○国による全国無作為抽出で行う大規模な4技能型試験の初めてのフィージビリティ調査。

○平成26年度は旧学習指導要領（平成20年改定前）で学んだ高３生を対象とした調査。（平成27年度は現行学習指導要領で学んだ生徒の調査を実施し、経年比較を行う予定。）

○高校生の英語力を幅広く測定するため、世界標準となっているCEFR（Common European Framework of Reference：ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1からB2までのレベルを測定できるように設計。（別紙参照）

4　調査結果の概要

1．　国公立学校全体の技能別調査結果

○「読むこと」及び「聞くこと」は CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）[1] の A1 レベル上位から A2 レベル下位に集中している。

○「書くこと」の得点者は全体の約 70%（無回答者及び 0 点は 29.2%）、「話すこと」の得点者は全体の約 85%（無回答者及び 0 点は 13.3%）となっており、課題が大きい。

【国立・公立学校全体のスコア分布】

<読むこと>

CEFR	得点	Reading	割合
B2	320	77	0.2%
	310	18	
	300	27	
B1	290	37	2.0%
	280	69	
	270	82	
	260	107	
	250	157	
	240	195	
	230	317	
	220	420	
A2	210	561	25.1%
	200	778	
	190	1124	
	180	1477	
	170	1956	
	160	2610	
	150	3545	
	140	5245	
A1	130	8192	72.7%
	120	11790	
	110	12508	
	100	9796	
	90	4698	
	80	1823	
	70	604	
	60	208	
	50	76	
	40	51	
	30	19	
	20	2	
	10	0	
	0	285	
	平均	129.4	
	調査対象	68,854	

<聞くこと>

CEFR	得点	Listening	割合
B2	320	175	0.3%
B1	310	50	2.0%
	300	70	
	290	68	
	280	109	
	270	126	
	260	160	
	250	227	
	240	256	
	230	341	
A2	220	454	21.8%
	210	615	
	200	748	
	190	992	
	180	1241	
	170	1731	
	160	2199	
	150	2996	
	140	4034	
A1	130	5438	75.9%
	120	7684	
	110	8831	
	100	9026	
	90	7840	
	80	5782	
	70	3474	
	60	2125	
	50	920	
	40	396	
	30	189	
	20	106	
	10	99	
	0	352	
	平均	120.3	
	調査対象	68,854	

<書くこと>

CEFR	得点	Writing	割合
B2	140	2	0.0%
	135	0	
	130	3	
B1	125	7	0.7%
	120	33	
	115	45	
	110	175	
	105	222	
A2	100	578	12.8%
	95	608	
	90	1,183	
	85	946	
	80	1,804	
	75	1,736	
	70	1,971	
A1	65	1,816	86.5%
	60	2,347	
	55	1,978	
	50	2,516	
	45	2,111	
	40	2,417	
	35	1,988	
	30	2,497	
	25	2,080	
	20	2,258	
	15	2,167	
	10	2,562	
	5	2,913	
	0	30,089	
	平均	27.2	
	調査対象	69,052	
	0点	20,134	29.2%

<話すこと>

CEFR	得点	Speaking	割合
B1	14	274	1.7%
A2	13	272	11.1%
	12	415	
	11	501	
	10	657	
A1	9	691	87.2%
	8	770	
	7	946	
	6	1185	
	5	1632	
	4	1105	
	3	1648	
	2	1450	
	1	2827	
	0	2210	
	平均	4.5	
	調査対象	16,583	
	0点	2,210	13.3%

[1] CEFR は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、2001 年に欧州評議会（Council of Europe）が発表した。現在、欧州域内外で使われている。欧州域内では、国により、CEFR の「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施する際に用いられたりしている。本調査では、テスト設計上、CEFR の A1～B2 までのレベルを「読むこと」及び「聞くこと」は 10 点刻み、「書くこと」は 5 点刻み、「話すこと」は 1 点刻みで設定し、スコア分布の状況を見ることとした。

※第 2 期教育振興基本計画においては、生徒の英語力の目標を、中学校卒業段階：英検 3 級程度（CEFR の A1 レベル）以上、高等学校卒業段階：英検準 2 級程度～2 級程度（同 A2～B1 レベル）以上）を達成した中高校生の割合が 50%としている。

2．　公立学校の技能別調査結果及び課題と指導改善のポイント

○「読むこと」及び「聞くこと」は CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）の A1 レベル上位から A2 レベル下位に集中している。

○「書くこと」の得点者は全体の約 70%（無回答者及び 0 点は 30.4%）、「話すこと」の得点者は全体の約 85%（無回答者及び 0 点は 14.0%）となっており、課題が大きい。

【公立学校のスコア分布】

<読むこと>

CEFR	得点	Reading	割合
B2	320	14	0.0%
	310	3	
	300	7	
B1	290	11	1.2%
	280	34	
	270	36	
	260	47	
	250	82	
	240	108	
	230	188	
	220	272	
A2	210	404	23.5%
	200	556	
	190	854	
	180	1204	
	170	1707	
	160	2367	
	150	3324	
	140	5031	
A1	130	7989	75.3%
	120	11631	
	110	12396	
	100	9740	
	90	4663	
	80	1813	
	70	598	
	60	206	
	50	75	
	40	50	
	30	18	
	20	1	
	10	0	
	0	282	
	平均	126.7	
	調査対象	65,711	

<聞くこと>

CEFR	得点	Listening	割合
B2	320	55	0.1%
B1	310	18	1.2%
	300	30	
	290	29	
	280	51	
	270	67	
	260	82	
	250	120	
	240	158	
	230	219	
A2	220	316	20.3%
	210	444	
	200	562	
	190	835	
	180	1043	
	170	1500	
	160	1992	
	150	2790	
	140	3857	
A1	130	5268	78.4%
	120	7526	
	110	8713	
	100	8936	
	90	7788	
	80	5734	
	70	3449	
	60	2110	
	50	913	
	40	391	
	30	186	
	20	103	
	10	94	
	0	332	
	平均	117.1	
	調査対象	65,711	

<書くこと>

CEFR	得点	Writing	割合
B2	140	0	0.0%
	135	0	
	130	0	
B1	125	2	0.3%
	120	6	
	115	10	
	110	59	
	105	101	
A2	100	306	10.7%
	95	420	
	90	829	
	85	737	
	80	1,465	
	75	1,525	
	70	1,752	
A1	65	1,668	89.1%
	60	2,169	
	55	1,876	
	50	2,400	
	45	2,039	
	40	2,346	
	35	1,940	
	30	2,441	
	25	2,045	
	20	2,226	
	15	2,151	
	10	2,529	
	5	2,889	
	0	29,973	
	平均	24.9	
	調査対象	65,904	
	0点	20,059	30.4%

<話すこと>

CEFR	得点	Speaking	割合
B1	14	166	1.0%
A2	13	193	9.5%
	12	330	
	11	418	
	10	559	
A1	9	621	89.5%
	8	718	
	7	898	
	6	1143	
	5	1602	
	4	1085	
	3	1629	
	2	1444	
	1	2816	
	0	2210	
	平均	4.2	
	調査対象	15,832	
	0点	2,210	14.0%

課題と指導改善のポイント　（◇…相当数の生徒ができている点　◆…課題のある点）

読むこと

◇短文レベルの語彙・語法問題の中には、正解率が 50%を超えるものもある。

◆まとまった量の英文の概要を理解すること、英文中から必要な情報を探し出すこと、英文の要点を理解することに課題がある。

◆生徒質問紙及び教員質問紙の結果では、授業において概要や要点を読み取る活動やその指導を行っているという回答が多いが、調査結果によると、概要や要点を理解することには課題がある。このことから、実際には、生徒がまとまりのある英文を読んで、全体の趣旨をとらえたり重要な点を把握したりする読み方を身につけていない可能性がある。

☞指導改善のポイント

◎学習者のレベルに合った文章をたくさん読む活動を行う。

◎読む目的（例えば、英文の概要を理解する、英文中から必要な情報を引き出すなど）を明確にし、それに沿って多様な英文を主体的に読む活動を行う。

◎まとまりのある英文を読んで、全体の趣旨をとらえたり、書き手が一番伝えたい内容は何かを議論したりするような活動を行う。

◎日頃の評価において、生徒の読む力を的確に把握するため、「指導目標の設定（身に付けるべき読む力の明確化）」と「評価方法の選択」との整合性を図る。

聞くこと

◇聞き取る英文中に設問で問われている語句が直接示されている場合は、それを認識して正しく理解することができる。

◆聞き取る英文中の表現とは別の表現が設問で使われている場合は、両者の関連付けに困難がある。

◆談話の要点や全体の流れ（誰が、どの立場で、どのような意図で、何を話したか）をとらえる力が不足しているため、断片的な理解にとどまっている。

☞指導改善のポイント

◎語句や文の表面的な聞き取りだけで終わらせず、聞き取った内容の概要や要点を自分の言葉で言い換えながら話したり書いたりするアウトプット活動を継続的に行う。

◎キーワードや要点を聞き取り、それらをつないで話のアウトラインを作る活動を行う。

書くこと

◆聞いた情報の要点を把握して適切に書くこと、適切な表現を用いて書くことに課題がある。

◆与えられたテーマについて、自分の意見や理由を適切に書くことに課題がある。

☞指導改善のポイント

◎聞いたり読んだりした内容について話したり書いたりするなど、「聞く」「話す」「読む」「書く」の 4 技能を組み合わせた統合的な言語活動を行う。

◎与えられたテーマに対する自分の意見に続き、そう思う理由を具体例などを入れながら読み手にわかりやすく書く活動を行う。

◎意見や理由などを考えるために、ブレーンストーミングをしたりアウトラインを作成したりして効率的に文章を構成・作成する活動を行う。

話すこと

◇与えられた 80 語程度の英文を、ほぼ適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさで発話することができる。

◆与えられた質問について、ある程度の準備をして、様々な表現方法を使いながら適切な英語を用いて応答することに課題がある。

☞指導改善のポイント

◎聞いたり読んだりした英文の内容について、英語で Q-A をしたり概要や要点をまとめて話したりすることなどにより、理解の確認を行う。

◎ペア・ワークやグループ・ワークなどを効果的に導入し、個々の生徒が発話する機会を増やす。

◎生徒にとってできるだけ興味・関心のある話題・内容を扱うとともに、間違いを気にせずに互いに発話できる雰囲気をつくる。

◎発話については、言語形式よりもやりとりする内容（情報や考えなど）に重点を置く。

◎発話した内容を書く機会を与え、文法、表現、語彙等について適宜コメントやアドバイスをする。

３．　公立学校の質問紙調査結果

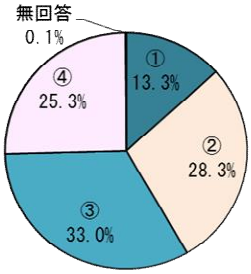
①生徒質問紙調査結果の主な特徴

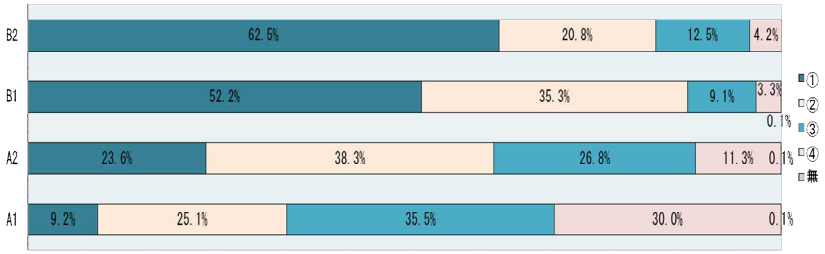
英語学習に対する意識

○英語の学習が好きではない生徒が半数を上回る（選択肢③と④の合計：58.3%）。特に A1 レベル（最も多くの生徒が含まれるレベル）においてこの傾向が顕著である。

No. 1　英語の学習は好きですか。最も当てはまる選択肢を１つ選んでください。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない





※「読むこと」のテスト結果とのクロス

将来の英語使用のイメージ

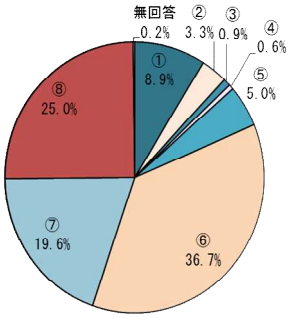
○将来の英語使用のイメージが、現在の英語力のレベルによって異なる。

○B2、B1 レベルなど英語力が高い生徒ほど、英語を職業（選択肢①）や学問（選択肢②）と結びついたものとして認識している。

○A1 レベルの生徒の英語使用イメージは、海外旅行や日常的な会話（選択肢⑥）、大学入試（選択肢⑦）などにとどまる傾向がある。

No. 2　どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを１つ選んで下さい。

①英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい　②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい　③高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい　④高校在学中に留学して、海外の高校の授業に参加できるようになりたい　⑤海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい　⑥海外旅行などをするときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい　⑦大学入試に対応できる力をつけたい　⑧特に学校の授業以外での利用を考えていない



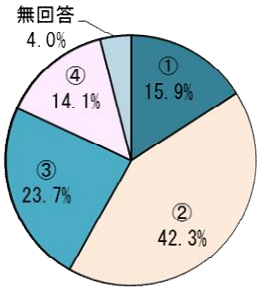
※「読むこと」のテスト結果とのクロス

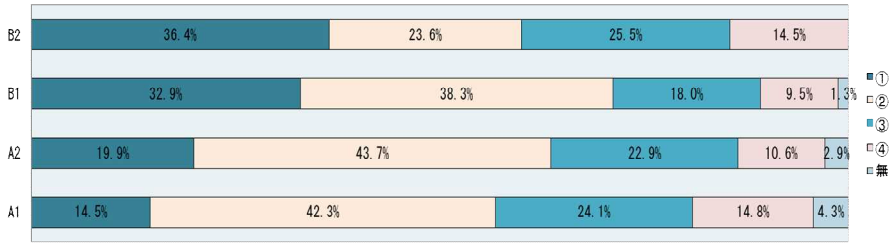
授業（第２学年）における言語活動の経験①
＜リスニング・リーディングでの概要・要点把握＞

○英語を聞いたり読んだりして、概要や要点をとらえる活動をしていた生徒は半数を上回る（選択肢①と②の合計：リスニング 58.2%、リーディング 67.2%）。

No.10-(2)　第２学年の英語の授業では、英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない

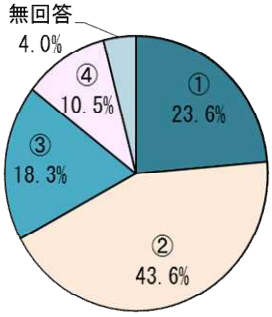


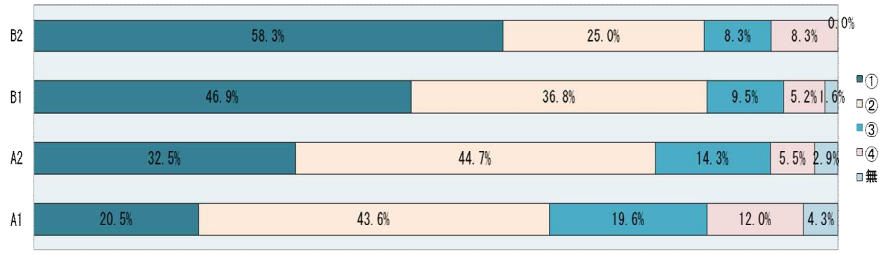


※「聞くこと」のテスト結果とのクロス

No.11-(2)　第２学年の英語の授業では、英語を読んで、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない





※「読むこと」のテスト結果とのクロス

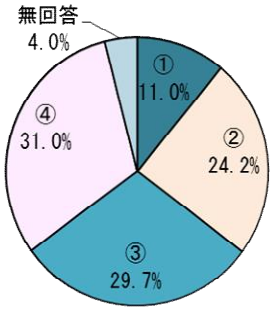
授業（第２学年）における言語活動の経験②
＜技能統合型：聞いたり読んだりしたことについての話合いや意見交換＞

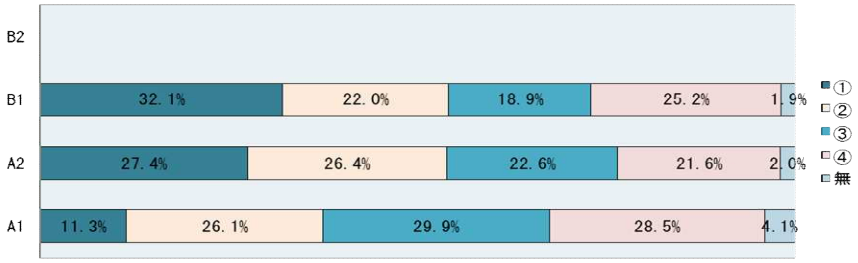
○聞いたり読んだりしたことについて、英語での話合いや意見交換をした経験が全体的に少ない（選択肢①と②の合計：35.2%）。

○「話すこと」のテストスコアが高い生徒ほど、英語での話合いや意見交換をした割合（選択肢①及び②）が高い。

No. 12-(2)　第２学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない





※「話すこと」のテスト結果とのクロス

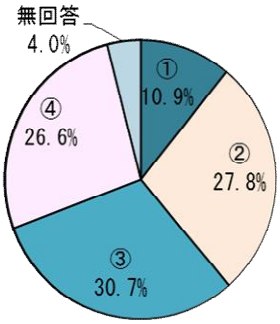
授業（第２学年）における言語活動の経験③
＜技能統合型：聞いたり読んだりしたことについて書いてまとめる、自分の考えを書く＞

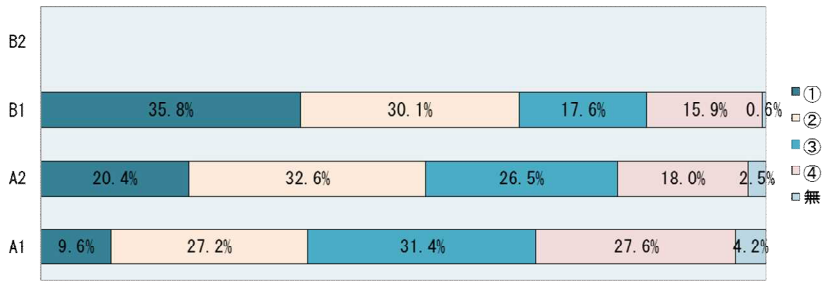
○聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりした経験が少ない（選択肢①と②の合計：38.7%）。

○「書くこと」のテストスコアが高い生徒ほど、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりした割合（選択肢①及び②）が高い。

No. 13-(2)　第２学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない





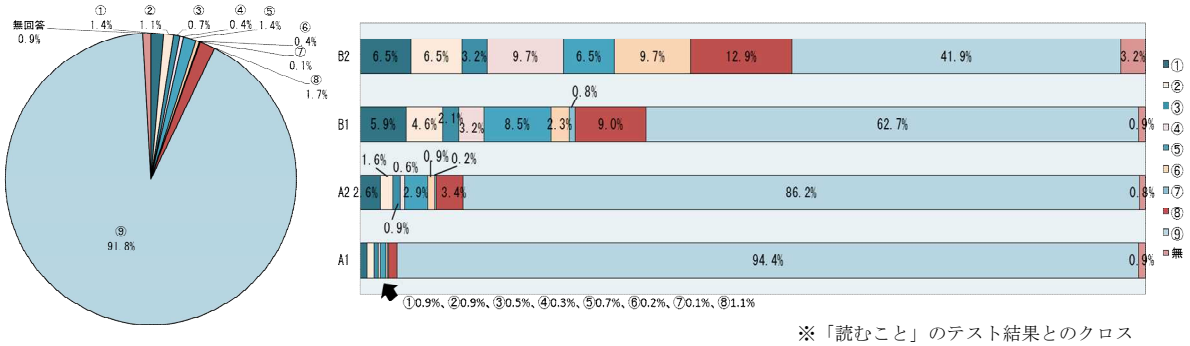
※「書くこと」のテスト結果とのクロス

英語を用いた各種活動の経験

〇高校生になってから、イングリッシュキャンプ、スピーチ・プレゼンテーション・ディベート大会、留学、ホームステイを経験したことがない生徒が多い（選択肢⑨：91.8%）。特に、A1、A2 レベルにおいてこの傾向が顕著である（選択肢⑨：A1 レベル 94.4%、A2 レベル 86.2%）。

No. 3　高校生になってから経験したことがあることは何ですか。当てはまるものをすべて選んで下さい。

①イングリッシュキャンプ　②英語のスピーチ大会（校内での予選等は除く）　③英語のプレゼンテーション大会（校内での予選等は除く）　④英語のディベート大会（校内での予選等は除く）　⑤留学（学校主催のプログラムを含む）（2 週間未満）　⑥留学（学校主催のプログラムを含む）（2 週間以上 3 か月未満）　⑦留学（学校主催のプログラムを含む）（3 か月以上）　⑧ホームステイ（現地の教育機関等で学習した場合を除く）　⑨当てはまるものはない



※「読むこと」のテスト結果とのクロス

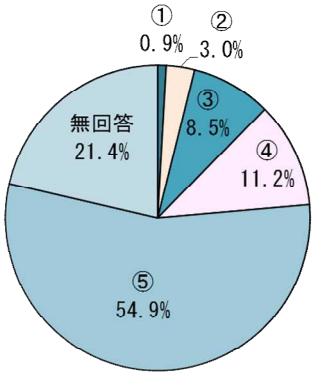
②教員質問紙調査結果の主な特徴

授業における英語使用

○授業における英語の使用割合が低い（⑤及び無回答を除いた中での①と②の合計：16.5%）。

No. 2-(1)　今年度の第３学年の授業において、あなたはどの程度英語を使用していますか（科目ごとに回答）。
※ここでは英語Ⅱのデータを掲載。

①発話をおおむね英語で行っている
（75%程度以上～）
②発話の半分以上を英語で行っている
（50%程度以上～75%程度未満）
③発話の半分未満を英語で行っている
（25%程度以上～50%程度未満）
④あまり行っていない　（25%程度未満）
⑤今年度は当該科目を担当していない



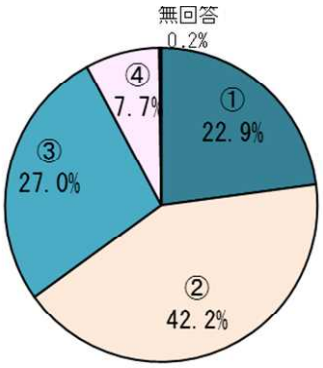
授業における言語活動の指導①
＜リスニング・リーディングでの概要・要点把握＞

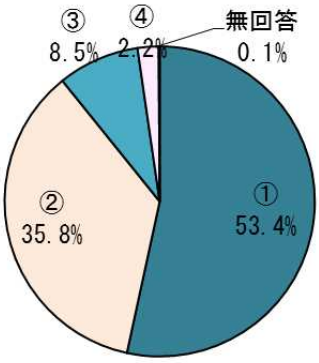
○英語を読んだり聞いたりして、概要や要点をとらえる活動をしている教員は多い
（選択肢①と②の合計：リスニング 65.1%、リーディング 89.2%）。

No. 1-(1)　普段の英語の授業において、英語を聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする活動を行っていますか。

No. 1-(2)　普段の英語の授業において、英語を読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする活動を行っていますか。

①よくしている　②どちらかといえば、している　③あまりしていない　④ほとんどしていない





授業における言語活動の指導②

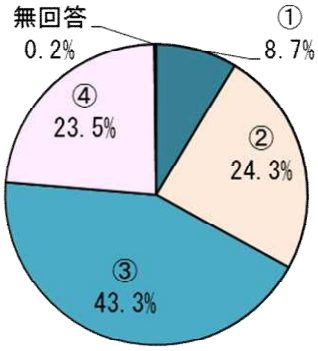
＜技能統合型：聞いたり読んだりしたことに基づく話合いや意見交換・書く活動＞

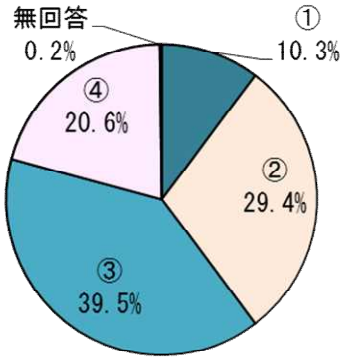
○聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話合いや意見交換を行っている教員（選択肢①と②の合計：33.0%）、書く活動を行っている教員（選択肢①と②の合計：39.7%）が少ない。

No. 1-(4)　普段の英語の授業において、聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っていますか。

No. 1-(5)　普段の英語の授業において、聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っていますか。

①よくしている　②どちらかといえば、している　③あまりしていない　④ほとんどしていない





授業における言語活動の指導③

＜技能統合型：スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション＞

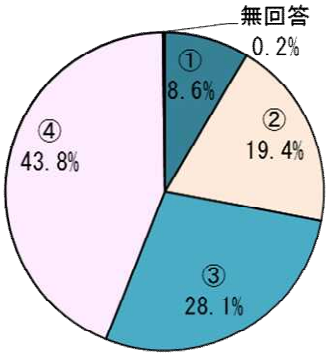
○スピーチやプレゼンテーションを行っている教員が少ない（選択肢①と②の合計：28.0%）。

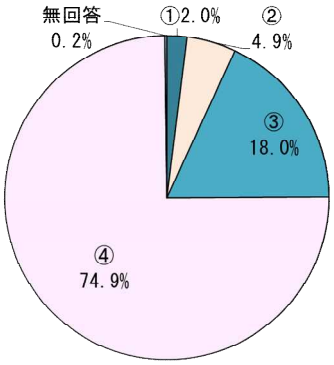
○ディベートやディスカッションを行っている教員が非常に少ない（選択肢①と②の合計：6.9%）。

No. 1-(13)　普段の英語の授業において、スピーチやプレゼンテーションを行っていますか。

No. 1-(14)　普段の英語の授業において、ディベートやディスカッションを行っていますか。

①よくしている　②どちらかといえば、している　③あまりしていない　④ほとんどしていない





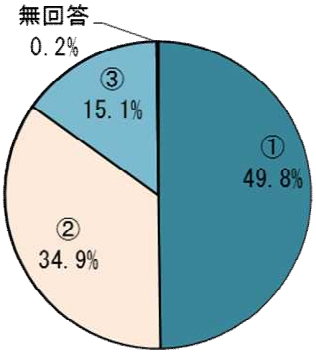
③学校質問紙調査結果の主な特徴

学習到達目標としての CAN-DO リストの設定

○学習到達目標としての CAN-DO リストは、49.8%の学校では既に技能別の設定が行われており（選択肢①）、34.9%の学校で今後設定する計画を持っている（選択肢②）。

No. 8　生徒の英語力に関して学校が設定する学習到達目標について、能力記述文（CAN-DO statements）で技能別にリスト化していますか。

①設定している
②今は設定していないが、今後設定する予定である
③設定しておらず、今後も設定する予定がない

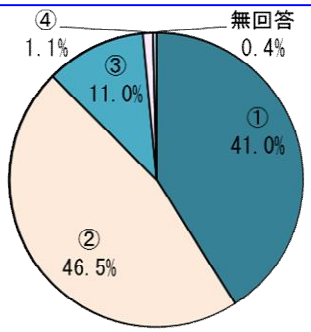


指導目標やその達成に向けた方策の共有

○英語科の指導目標やその達成に向けた方策を、全英語科教員の間で共有している学校が多い（選択肢①と②の合計：87.5%）。

No. 4　英語科の指導目標やその達成に向けた方策について、全英語科教員の間で共有し、取組にあたっていますか。

①よくしている
②どちらかといえば、している
③あまりしていない
④ほとんどしていない

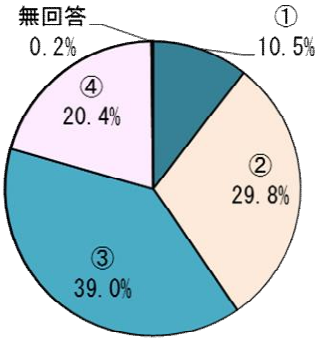


授業以外での国際交流、外国語のコミュニケーション能力育成の取組

○授業以外での国際交流や外国語のコミュニケーション能力育成のための取組が不十分な学校が多い（選択肢③と④の合計：59.4%）。

No. 5　現在の第 3 学年の生徒に対して、入学してからこれまで、授業以外で国際交流や外国語のコミュニケーション能力育成のための取組を実施しましたか。

①よく行った
②どちらかといえば、行った
③あまり行っていない
④ほとんど行っていない

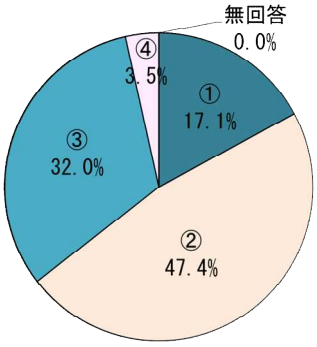


英語教育に関する校内研修

○英語教育に関して、模擬授業、授業相互参観などの実践的な研修を行っている学校が半数を上回っている（選択肢①と②の合計：64.5%）。

No. 1　英語教育に関して、模擬授業、授業相互参観、事例研究など、実践的な研修を行っていますか。

①よくしている
②どちらかといえば、している
③あまりしていない
④ほとんどしていない

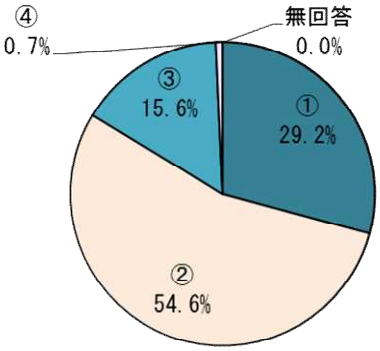


英語教育に関する校外研修への参加

○英語教育に関して、教員が学校外の研修に積極的に参加できるようにしている学校が多い（選択肢①と②の合計：83.8%）。

No. 2　英語教育に関して、教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか。

①よくしている
②どちらかといえば、している
③あまりしていない
④ほとんどしていない



４．　国立学校の技能別調査結果

○4 技能とも CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）の A2 レベルの割合が最も高い。

○B1 レベルの割合も一定程度あり、「読むこと」は 19.3%、「聞くこと」は 20.1%、「書くこと」は 9.7%、「話すこと」は 14.4%となっている。

【国立学校のスコア分布】

<読むこと>

CEFR	得点	Reading	割合
B2	320	63	3.1%
	310	15	
	300	20	
B1	290	26	19.3%
	280	35	
	270	46	
	260	60	
	250	75	
	240	87	
	230	129	
	220	148	
A2	210	157	58.8%
	200	222	
	190	270	
	180	273	
	170	249	
	160	243	
	150	221	
	140	214	
A1	130	203	18.8%
	120	159	
	110	112	
	100	56	
	90	35	
	80	10	
	70	6	
	60	2	
	50	1	
	40	1	
	30	1	
	20	1	
	10	0	
	0	3	
	平均	185.1	
	調査対象	3,143	

<聞くこと>

CEFR	得点	Listening	割合
B2	320	120	3.8%
B1	310	32	20.1%
	300	40	
	290	39	
	280	58	
	270	59	
	260	78	
	250	107	
	240	98	
	230	122	
A2	220	138	53.2%
	210	171	
	200	186	
	190	157	
	180	198	
	170	231	
	160	207	
	150	206	
	140	177	
A1	130	170	22.9%
	120	158	
	110	118	
	100	90	
	90	52	
	80	48	
	70	25	
	60	15	
	50	7	
	40	5	
	30	3	
	20	3	
	10	5	
	0	20	
	平均	187.0	
	調査対象	3,143	

<書くこと>

CEFR	得点	Writing	割合
B2	140	2	0.2%
	135	0	
	130	3	
B1	125	5	9.7%
	120	27	
	115	35	
	110	116	
	105	121	
A2	100	272	56.9%
	95	188	
	90	354	
	85	209	
	80	339	
	75	211	
	70	219	
A1	65	148	33.3%
	60	178	
	55	102	
	50	116	
	45	72	
	40	71	
	35	48	
	30	56	
	25	35	
	20	32	
	15	16	
	10	33	
	5	24	
	0	116	
	平均	75.3	
	調査対象	3,148	
	0点	80	2.5%

<話すこと>

CEFR	得点	Speaking	割合
B1	14	108	14.4%
A2	13	79	45.9%
	12	85	
	11	83	
	10	98	
A1	9	70	39.7%
	8	52	
	7	48	
	6	42	
	5	30	
	4	20	
	3	19	
	2	6	
	1	11	
	0	0	
	平均	9.8	
	調査対象	751	
	0点	0	0.0%

５．　国立学校の質問紙調査結果

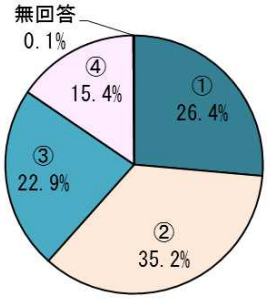
①生徒質問紙調査結果の主な特徴

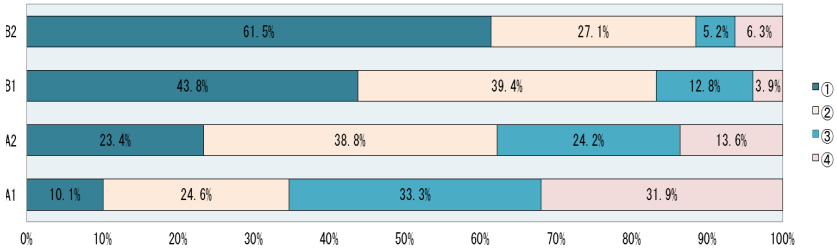
英語学習に対する意識

○英語の学習が好きな生徒が半数を上回る（選択肢①と②の合計：61.6%）。特に、B2、B1 レベルにおいてこの傾向が顕著である。

No. 1 英語の学習は好きですか。最も当てはまる選択肢を１つ選んでください。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない





※「読むこと」のテスト結果とのクロス

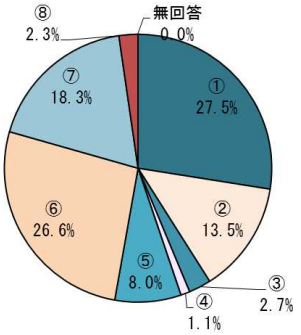
将来の英語使用のイメージ

○将来の英語使用のイメージが、現在の英語力のレベルによって異なる。

○B2、B1 レベルなど英語力が高い生徒ほど、英語を職業（選択肢①）や学問（選択肢②）と結びついたものとして認識している。

No. 2　どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを１つ選んで下さい。

①英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい　②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい　③高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい　④高校在学中に留学して、海外の高校の授業に参加できるようになりたい　⑤海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい　⑥海外旅行などをするときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい　⑦大学入試に対応できる力をつけたい　⑧特に学校の授業以外での利用を考えていない



※「読むこと」のテスト結果とのクロス

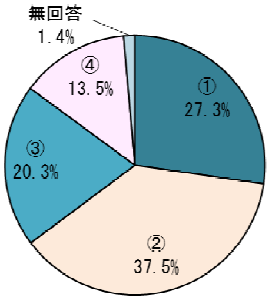
授業（第２学年）における言語活動の経験①

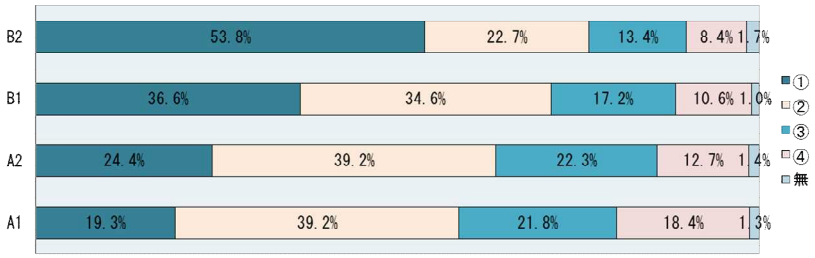
＜リスニング・リーディングでの概要・要点把握＞

○英語を聞いたり読んだりして、概要や要点をとらえる活動をしていた生徒は半数を上回る（選択肢①と②の合計：リスニング 64.8%、リーディング 78.9%）。

No. 10-(2)　第２学年の英語の授業では、英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。

①そう思う	②どちらかといえば、そう思う	③どちらかといえば、そう思わない	④そう思わない

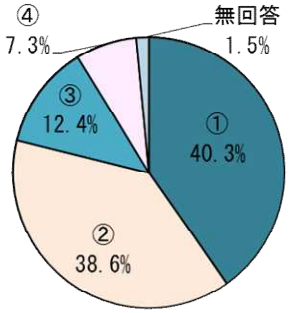


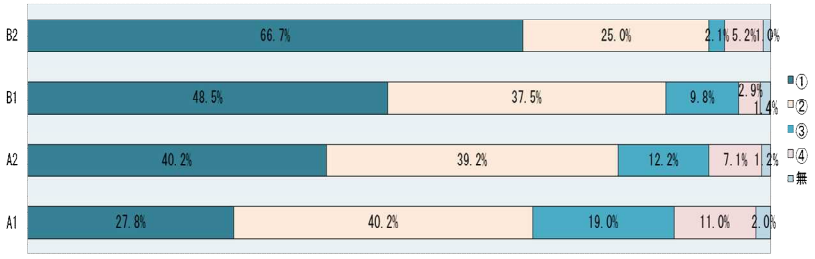


※「聞くこと」のテスト結果とのクロス

No. 11-(2)　第２学年の英語の授業では、英語を読んで、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。

①そう思う	②どちらかといえば、そう思う	③どちらかといえば、そう思わない	④そう思わない





※「読むこと」のテスト結果とのクロス

授業（第２学年）における言語活動の経験②

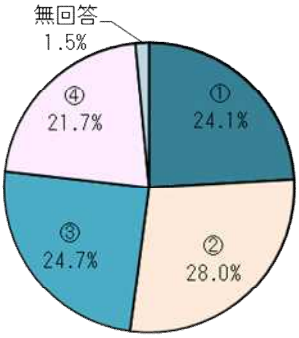
＜技能統合型：聞いたり読んだりしたことについての話合いや意見交換＞

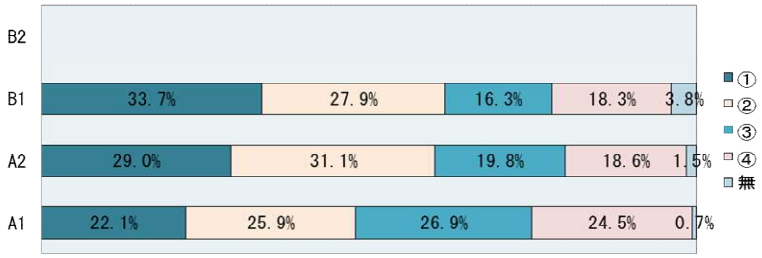
○聞いたり読んだりしたことについて、英語での話合いや意見交換をしていた生徒が半数を上回る（選択肢①と②の合計：52.1%）。

○「話すこと」のテストスコアが高い生徒ほど、英語での話合いや意見交換をした割合（選択肢①及び②）が高い。

No. 12 (2)　第２学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない





※「話すこと」のテスト結果とのクロス

授業（第２学年）における言語活動の経験③

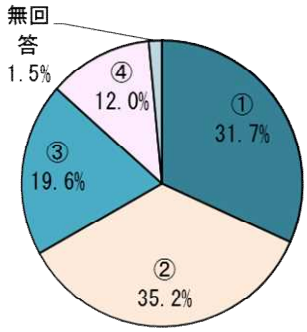
＜技能統合型：聞いたり読んだりしたことについて書いてまとめる、自分の考えを書く＞

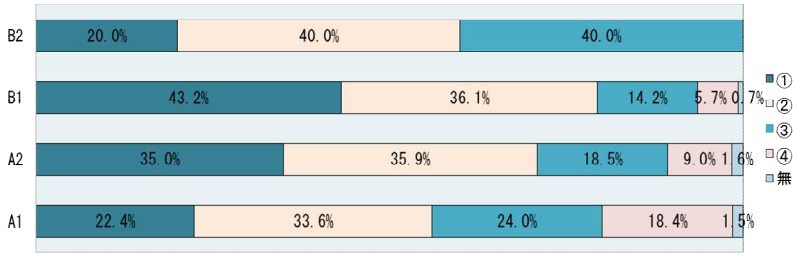
○聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた生徒が多い（選択肢①と②の合計：66.9%）。

○「書くこと」のテストスコアが高い生徒ほど、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりした割合（選択肢①及び②）が高い。

No. 13-(2)　第２学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いたりまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない





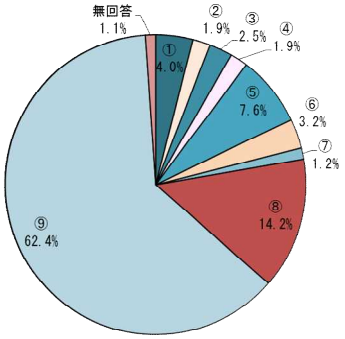
※「書くこと」のテスト結果とのクロス

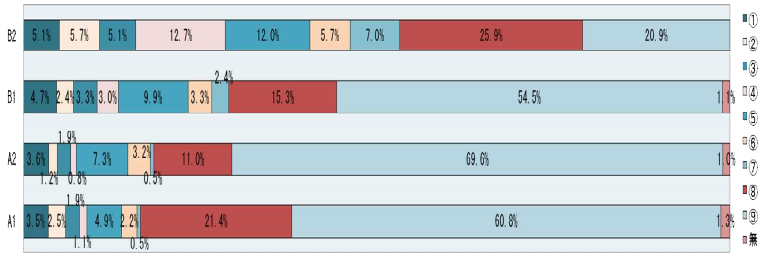
英語を用いた各種活動の経験

○高校生になってから、イングリッシュキャンプ、スピーチ・プレゼンテーション・ディベート大会、留学、ホームステイを経験したことがない生徒が半数を上回る（選択肢⑨：62.4%）。特に、A1、A2 レベルにおいてこの傾向が顕著である（選択肢⑨：A1 レベル 60.8%、A2 レベル 69.6%）。

No. 3　高校生になってから経験したことがあることは何ですか。当てはまるものをすべて選んで下さい。

①イングリッシュキャンプ　②英語のスピーチ大会（校内での予選等は除く）　③英語のプレゼンテーション大会（校内での予選等は除く）　④英語のディベート大会（校内での予選等は除く）　⑤留学（学校主催のプログラムを含む）（2 週間未満）　⑥留学（学校主催のプログラムを含む）（2 週間以上 3 か月未満）　⑦留学（学校主催のプログラムを含む）（3 か月以上）　⑧ホームステイ（現地の教育機関等で学習した場合を除く）　⑨当てはまるものはない





※「読むこと」のテスト結果とのクロス

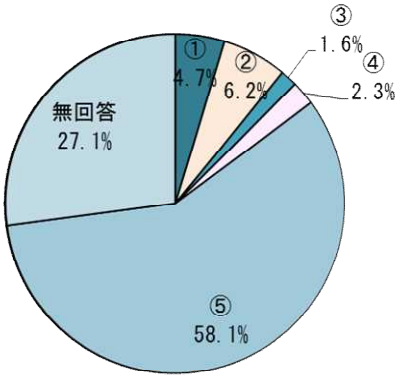
②教員質問紙調査結果の主な特徴

授業における英語使用

○授業における英語の使用割合が高い（⑤及び無回答を除いた中での①と②の合計：73.6%）。

No. 2-(1)　今年度の第３学年の授業において、あなたはどの程度英語を使用していますか（科目ごとに回答）。
※ここでは英語Ⅱのデータを掲載。

①発話をおおむね英語で行っている
（75%程度以上～）
②発話の半分以上を英語で行っている
（50%程度以上～75%程度未満）
③発話の半分未満を英語で行っている
（25%程度以上～50%程度未満）
④あまり行っていない　（25%程度未満）
⑤今年度は当該科目を担当していない



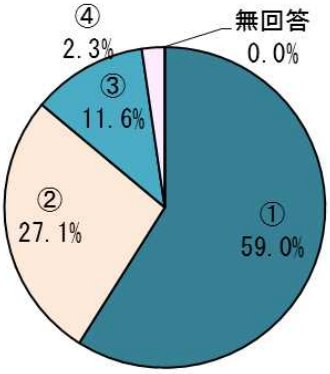
授業における言語活動の指導①
＜リスニング・リーディングでの概要・要点の把握＞

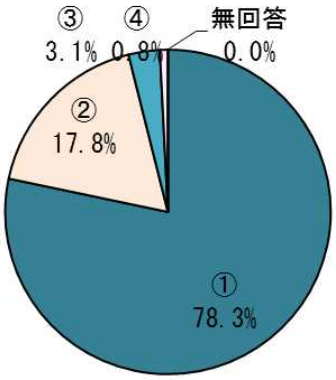
○英語を読んだり聞いたりして、概要や要点をとらえる活動をしている教員は多い
（選択肢①と②の合計：リスニング 86.1%、リーディング 96.1%）。

No. 1-(1)　普段の英語の授業において、英語を聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする活動を行っていますか。

No. 1-(2)　普段の英語の授業において、英語を読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする活動を行っていますか。

①よくしている　②どちらかといえば、している　③あまりしていない　④ほとんどしていない





授業における言語活動の指導②

＜技能統合型：聞いたり読んだりしたことに基づく話合いや意見交換・書く活動＞

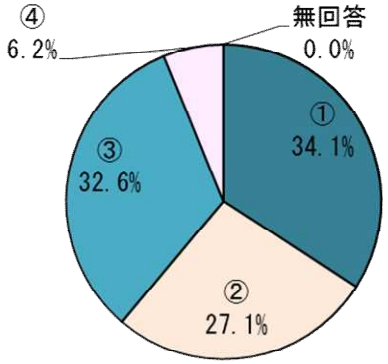
○聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話合いや意見交換を行っている教員が比較的多い（選択肢①と②の合計：61.2%）。

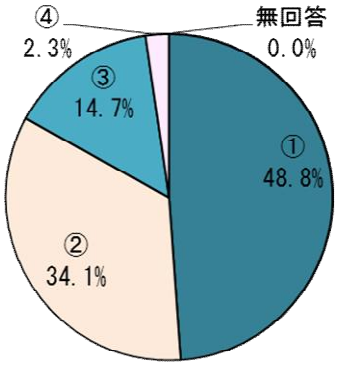
○聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っている教員がかなり多い（選択肢①と②の合計：82.9%）。

No. 1-(4)　普段の英語の授業において、聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っていますか。

No. 1-(5)　普段の英語の授業において、聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っていますか。

①よくしている　②どちらかといえば、している　③あまりしていない　④ほとんどしていない





授業における言語活動の指導③

＜技能統合型：スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション＞

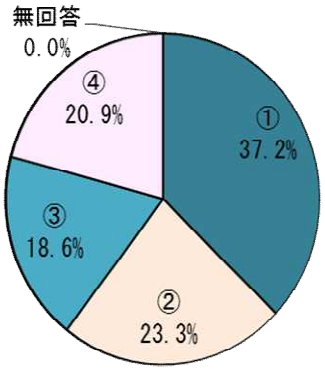
○スピーチやプレゼンテーションを行っている教員が比較的多い（選択肢①と②の合計：60.5%）。

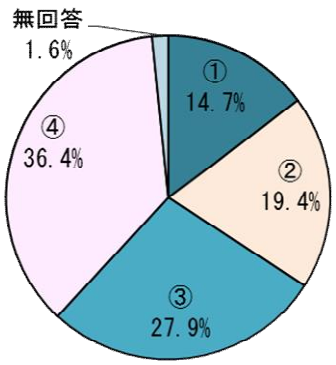
○ディベートやディスカッションを行っている教員が少ない（選択肢①と②の合計：34.1%）。

No. 1-(13)　普段の英語の授業において、スピーチやプレゼンテーションを行っていますか。

No. 1-(14)　普段の英語の授業において、ディベートやディスカッションを行っていますか。

①よくしている　②どちらかといえば、している　③あまりしていない　④ほとんどしていない





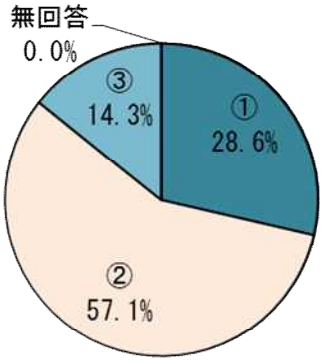
③学校質問紙調査結果の主な特徴

学習到達目標としての CAN-DO リストの設定

○学習到達目標としての CAN-DO リストは、28.6%の学校では既に技能別の設定が行われており（選択肢①）、57.1%の学校で今後設定する計画を持っている（選択肢②）

No. 8　生徒の英語力に関して学校が設定する学習到達目標について、能力記述文（CAN-DO statements）で技能別にリスト化していますか。

①設定している
②今は設定していないが、今後設定する予定である
③設定しておらず、今後も設定する予定がない

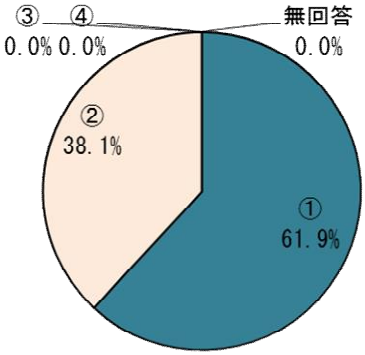


指導目標やその達成に向けた方策の共有

○英語科の指導目標やその達成に向けた方策を、全英語科教員の間でほぼ共有している（選択肢①と②の合計 100%）。

No. 4　英語科の指導目標やその達成に向けた方策について、全英語科教員の間で共有し、取組にあたっていますか。

①よくしている
②どちらかといえば、している
③あまりしていない
④ほとんどしていない

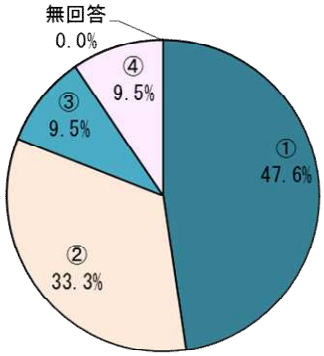


授業以外での国際交流、外国語のコミュニケーション能力育成の取組

○授業以外での国際交流や外国語のコミュニケーション能力育成のための取組が進んでいる（選択肢①と②の合計 80.9%）。

No. 5　現在の第 3 学年の生徒に対して、入学してからこれまで、授業以外で国際交流や外国語のコミュニケーション能力育成のための取組を実施しましたか。

①よく行った
②どちらかといえば、行った
③あまり行っていない
④ほとんど行っていない

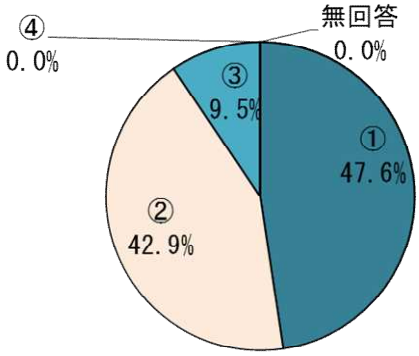


英語教育に関する校内研修

○英語教育に関して、模擬授業、授業相互参観などの実践的な研修を行っている学校がほとんどである（選択肢①と②の合計：90.5%）。

No. 1　英語教育に関して、模擬授業、授業相互参観、事例研究など、実践的な研修を行っていますか。

①よくしている
②どちらかといえば、している
③あまりしていない
④ほとんどしていない

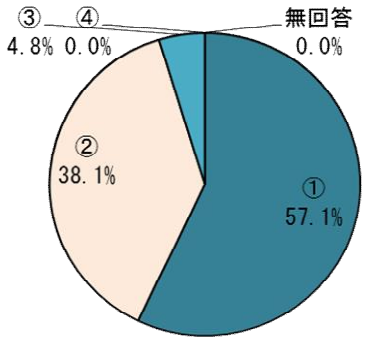


英語教育に関する校外研修への参加

○英語教育に関して、教員が学校外の研修に積極的に参加できるようにしている学校がほとんどである（選択肢①と②の合計 95.2%）。

No. 2　英語教育に関して、教員が、他校や外部の研究機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか。

①よくしている
②どちらかといえば、している
③あまりしていない
④ほとんどしていない



５　終章

＜本調査の意義＞

○英語の資格・検定試験団体との連携による４技能テストを開発・活用した大規模調査によって生徒の英語力を把握

・全国の高校３年生約７万人（約 480 校）を無作為抽出し、生徒の英語力（聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの４技能）と英語の学習状況を調査・分析し、これまでの英語教育の成果と課題を検証した。

・日本の高校３年生の英語力は４技能全てにおいて課題があり，特に、「話すこと」「書くこと」の発信技能については問題がより深刻である。

・生徒及び英語担当教員を対象に実施した質問紙調査の結果を分析することで、学校における指導上の課題がより明確になった。特に、指導や評価の具体的な方法に関する状況を改善する必要があることが明らかになった。

・今回の調査結果を、学校においては授業指導の充実や生徒の学習状況の改善に役立て、国としては次期学習指導要領の改訂に向けた検討材料として活用することが期待される。

○英語４技能テスト実施の実行可能性を検証

・国が、学習指導要領に基づき、生徒の英語の４技能の力を総合的に測るテストの仕様を作成し、初めて民間の資格・検定試験団体との協働による「フィージビリティ調査」として実施した。

・本調査の実施は、現在検討されている高大接続の実現に向けた新たな４技能テストの開発及び導入の可能性を検証する上で意義がある。

〈改善への取組のポイント〉

（１）指導上の主な問題点と改善への指針

【リーディング】

○目的に応じて読む指導が十分でなく、生徒はどのような英文を読む場合も「すべての内容を正しく理解する」ことを目的として学習してきた傾向が強い。まとまりのある英文を素早く読んで概要をつかむなど、実際の英語使用において頻繁に行われる読み方をすることが重要である。

○教科書等の教材の英文が生徒にとって難し過ぎないか、短過ぎないか、英文の種類に多様性があるか等を検討する必要がある。特に、読みながら考える習慣を促進するためにも、論証文を十分に読み、書き手が最も伝えたいこと及びそれに対する読み手の立場を明確にした上で、議論したり書いたりする活動が求められる。

【リスニング】

○英語を聞いて英語のまま理解することができていない生徒が多く、聞き取る英文に出てくる表現とは別の表現が設問で使われていると、両者の関連付けが困難になる状況が見られる。英語の授業を英語で実施し、教員が教科書中の英語や生徒の発話内容を他の表現で言い換えることなどを積極的に行うことが必要である。

○話の要点や全体の流れ（誰が、どの立場で、どのような意図で、何を話したか）を論理的に捉える力が不足している。文や文章における意味解釈の力を育むためには、単語の文字や音声レベルでの情報処理のために記憶力を費やさないことが重要で、実際のコミュニケーションにおいて使用される定型表現などを繰り返し使用しながら、キーワードや要点を聞き取り、話の流れを書き留めるなどの学習が必要である。

【ライティング】

○英文を書く経験が不足している生徒が多いため、まずは平易な英文を読み、概要・要点や内容に対する感想や意見などを、既知の表現や英文の中で学習した表現を使って１文レベルでも書く活動を日常的に行う必要がある。その際、重要な箇所をノートに書いたりそれらを別の表現で言い換えたるなどの学習によって、聞いたり読んだりする活動を通して思考し、判断した上で、書く力を育むことが大切である。

○与えられた話題について論点や根拠を明確にして書かせる指導が不十分であることから、平易な話題について、短い文章でも構わないので、立場を明確にし、主張と根拠を区別し、例を挙げて書く活動を増やすことが大切である。

○考えが浮かばないという生徒も多いので、英語を書く前に、理由や具体例を出し合うブレーンストーミングのような活動をペアやグループで行うとともに、長い英文を書けるようにするため、文章の構成方法を教え、アウトラインを作成した上で書かせる指導が求められる。

【スピーキング】

○英語で話し合ったり意見を交換したりする活動を経験していない生徒の割合が高いため、ペア・ワークやグループ・ワークといった主体的・協働的な学習活動の形態を更に取り入れることが必要である。その際、スピーキングを独立した技能として扱うのではなく、聞いたり読んだりした内容をまとめ、それに対する考えを書き、それらをもとに発表や対話を行う学習を経験させることが重要である。

○授業において英語でのディベートやディスカッションを行ったことがあると回答した生徒ほど、より適切かつ多様な表現を使った応答ができている。生徒が興味・関心を持つことができる身近な話題について主体的にスピーチ、ディベート、ディスカッションなどの活動を行うことで、生徒に豊富に発話させる指導が求められる。

【総括】

○４技能、特に、「書く」「話す」の発信技能が弱いが、２つ以上の技能を統合的に使うことに慣れていない生徒が多いので、複数の技能を統合して使う活動を通して４技能を総合的に育成する必要がある。そのためには、聞いたり読んだりしたことについて、生徒が主体的に考えを話したり書いたりして人に伝えることを最終的な目的とした指導が望ましい。

○日々の授業において、生徒が英語の基礎的・基本的な知識・技能を活用し、幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う言語活動を豊富に経験することで、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりし、互いに学び合う意識を高め、コミュニケーション能力を向上させていく必要がある。そのため、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動を通して自ら課題を発見し、生徒が主体性を持って他者と協働し、思考力・判断力・表現力等を身に付ける学習・指導方法（アクティブ・ラーニング）を充実させることが求められる。

（２）総合的なコミュニケーション能力の育成に資する目標の設定等

○生徒の英語力とともに、英語学習に対する意識面に課題があることが明らかになったことを踏まえ、次期学習指導要領では、将来の英語使用のイメージを持ちながら学習意欲の維持・向上を図るため、知識・技能を主体的に活用して、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から一貫した目標（４技能に係る具体的な指標形式）の設定が望まれる。

○従来設定されている英語力の目標[1]だけでなく、高等学校段階の生徒の特性・進路等に応じた英語力の目標、例えば、高等学校卒業段階で、CEFR の B2 レベル（英検準１級、GTEC CBT 1250～1399 点、TOEFL iBT 72～94 点、TEAP 334～399 点等[2]）を設定し、生徒の英語力の把握、課題の分析、指導の改善・充実や生徒の学習意欲の向上につなげることが必要である。

（３）学校における指導・評価の改善

○英語力が高い生徒ほど英語で話し合いや意見交換をしていることなどから、「話すこと」や「書くこと」などを通じて主体的に互いの考えや気持ちを英語で伝え合う活動を行うことが重要である。

○学校では、４技能を通じて「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、学習到達目標を CAN-DO 形式で設定し、技能の統合を意識した言語活動に関する指導・評価の方法を改善することが必要である。

○英語の学習が好きではない生徒が半数を上回ることから、主体的な学びにつながる「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を重視した評価を行うことによって、生徒自らが主体的に学ぶ意欲や態度などを含めた多面的な評価方法等を検証、活用していくことが重要である。

（４）入学者選抜等の改善

○大学入学者選抜における英語力の測定は、高等学校での学習を踏まえ、４技能のコミュニケーション能力が適切に評価されることが必要である。

○各大学では、アドミッション・ポリシー等との整合性を図ることを前提に、入学者選抜に４技能を測定する資格・検定試験の更なる活用を促進することが望まれる。特に、スーパーグローバル大学は、いわゆる一般入試での４技能を測定する資格・検定試験の活用を、スピード感を持って検討すべきである。

○高等学校における英語力評価や入学者選抜においても、４技能がバランスよく測定できる試験、さらには、２技能以上を統合して使う力を測定できる試験の開発若しくは活用の検討が急務である。ただし、試験対策そのものが英語学習の目的とならないように留意する必要がある。

（５）教科書・教材の改善

○発表・討論・交渉といった言語活動を展開し、総合的なコミュニケーション能力を育成するのに適した教科書・教材を使用することが必要である。

○コミュニケーション能力を効率的かつ効果的に育成するために、音声や映像を含めた ICT を活用した教材の開発と効果的な使用法の検討を促進すべきである。

---

[1] 「第２期教育振興基本計画」では、学習指導要領に沿って設定される英語力の目標（中学校卒業段階：英検３級程度以上、高等学校卒業段階：英検準２級程度から２級程度以上）を達成した中・高生の割合５０％を成果目標として設定している。

[2] これらのスコアは、各資格・検定試験団体が CEFR との関係を独自に分析・公表しているものである。

（６）英語担当教員の養成・採用・研修の改善

○４技能を通じて高いコミュニケーション能力と指導力を修得できるよう、教職課程の在り方、採用、現職の英語担当教員に対する研修を一体的に見直す必要がある。

○教職課程では、生徒の４技能を総合的に育成するための指導法、発表・討論・交渉などの言語活動の充実に対応した指導計画の作成、ペア・ワークやグループ・ワークの展開方法、時事的な話題や社会課題などについて意見交換などを行う模擬授業、４技能の能力を適切に測ることができる評価方法（筆記テストに加え、「話すこと」や「書くこと」の能力を測るパフォーマンステスト等)、教材の効果的な活用などに関する内容の改善が必要である。

○採用時においては、資格・検定試験による一定の英語力を求めるとともに、模擬授業などによって実践的な指導力を評価するなど、採用方法を改善することが求められる。

○聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語を用いて話し合ったりする授業をあまり行っていない教員が多いことから、現職の英語担当教員の研修においても、前述の教職課程と同様の事項について研修の機会を充実させることが求められる。

○養成段階における英語教員志望者の英語力及び現職の英語担当教員の英語力を、少なくとも英検準１級、TOEFL iBT80 点程度以上までに高めていくことが期待される。

（参考）　調査問題の構成

●「読むこと」：多肢選択式・3パート構成・43問（約45分）

●「聞くこと」：多肢選択式・2パート構成・36問（約25分）

●「書くこと」：自由記述式・2パート構成・2問（約25分）

計 約2単位時間

●「話すこと」：音読、即興での質疑応答、ある程度準備した上での意見陳述について評価基準を設け、教員が面接を実施（約10分）

約10分

［試験問題の構成］

	Reading 読むこと	Listening 聞くこと	Writing 書くこと	Speaking 話すこと
測定する力	実際の言語使用場面を前提とした英語コミュニケーション能力 （「知識・技能」の習得だけでなく、それらを活用して思考・判断・表現する総合的な力）			
問題構成	**語彙・語法問題 14問** （短文の中で、文脈を理解するとともに、文法的に、また語彙選択上最も適切な表現を正確に判断できる力） ※A2～B1相当	**課題解決問題 18問** （日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報（イラスト）と音声情報から、その場で求められている課題（タスク）を解決する力） ※A2相当	**情報要約問題 1問** （英文音声で聞いた情報を理解し、指定語数（30語程度）で要　約して書く力） ※B1～B2相当	**音読問題 1問** （適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさで話す力） ※A1～B2相当
	概要把握問題 6問 （与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力） ※A2～B1相当	**要点理解問題 18問** （英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする力） ※A2～B2相当	**意見展開問題 1問** （与えられた話題について、限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する力） ※A2～B2相当	**質疑応答問題 1問** （試験官からの問いかけに応じて生徒自身の経験や考えを適切に述べる力） ※A1～B2相当
	情報検索問題 8問 （与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力） ※A2相当			**意見陳述問題 1問** （与えられた話題について、事実と自分の意見とを区別して、論理的に説明する力） ※A1～B2相当
	要点理解問題 15問 （まとまった量の英文について、英文の趣旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力） ※B2相当			

［生徒・学校・教員に対する質問紙調査の構成（15分）］

項目	内容
生徒質問紙	○英語そのものに関する意識（関心、英語を身に付けて何をしたいかなど） ○英語使用に関する経験（スピーチ大会、プレゼンテーション、留学など） ○英語に関する資格・検定試験の受験経験 ○英語の学習方法・内容や学習時間 ○学校における4技能活用状況　　など
教員質問紙	○教員の指導状況について（スピーチ、プレゼン、ディスカッション、研修への参加状況、自己学習の状況）
学校質問紙	○学校組織での指導の実態について（模擬授業など研修実施等）

（別紙）

外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠について

CEFRは、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表した。現在、欧州域内外で使われている。欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施する際に用いられたりしている。

熟練した言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

（出典） ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)			8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400	7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検： 日本英語検定協会 http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/
http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901_pressrelease_01.pdf
TOEFL：米国ETS Webサイトに近日公開予定
IELTS：ブリティッシュ・カウンシル（および日本英語検定協会）資料より
TEAP： 第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より
Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構 http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/
http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/

GTEC ：ベネッセコーポレーションによる資料より
TOEIC ： IIBC http://www.toeic.or.jp/toeic/about/result.html
「**L&R**」または「**S&W**」の記載が無い数値が４技能の合計点

※各団体の公表資料より文部科学省において作成

「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する検討委員会」の設置

平成 26 年 5 月 19 日
初等中等教育局長決定

１．　設置の趣旨

平成 26 年度「英語教育改善のための英語力調査事業」を活用して、生徒の英語力の現状等を検証するとともに、調査結果に関する分析及びその活用の推進のための方策等について検討を行う「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する検討委員会」を設置する。

２．　取扱事項

（１）生徒の英語力の現状把握及び調査結果の分析
（２）調査結果を活用した改善に向けた取組の推進方策の検討
（３）その他

３．　実施方法

（１）本委員会の構成員は別紙のとおりとする。
（２）本委員会のもとに、必要に応じてワーキンググループを置くことができる。
（３）必要に応じて、別紙以外の関係者にも協力を求めることができる。

４．　実施期間

平成 26 年 5 月 26 日から平成 27 年 3 月 31 日

５．　その他

この作業に関する庶務は、初等中等教育局国際教育課において行う。

英語教育改善のための英語力調査事業報告書　執筆協力者（五十音順）

（職名は平成 27 年 3 月現在）

「英語教育改善のための英語力調査事業」の分析･活用に関する
検討委員会　委員

○：主査

	安間　一雄	獨協大学国際教養学部言語文化学科　教授
	岡部　憲治	工学院大学附属中学校・高等学校　教諭
	竹内　理	関西大学外国語学部外国語学科　教授
	根岸　雅史	東京外国語大学大学院総合国際学研究院　教授
○	松本　茂	立教大学グローバル教育センター長
	森　　博英	日本大学経済学部　教授
	渡部　良典	上智大学言語科学研究科　教授

文部科学省においては、次の関係官が担当した。

向後　秀明　　文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
（兼）国際教育課外国語教育推進室教科調査官